

長沼殿の勇者達へ ～卒業生へ長沼最後の校長通信～

校長 夏目 利江子



いよいよお別れの時がやってきました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。伝統ある長沼高校最後の卒業証書を受け取る皆さんは、文字通り「歴史に残る学年」です。今までよく頑張りました。須賀川高校との統合で周囲が大きく変化したこの二年間。新型コロナウイルス対応に振り回された多くの時間。そして、東日本大震災での藤沼湖決壊から十年目。震災教訓を引き継ごうと、次の世代へバトンを渡そうと、皆さんは奔走してくれました。ありがとね。そして、コロナと闘いながらの東京2020オリンピック。学校が一つになった長高ねぶたの完成式。一般公開ではないけれど、校内で盛り上がった長沼高校最後の文化祭。あの日の文化祭前夜は真夜中まで、もの凄い突風が吹き荒れました。ねぶた飛ばされていないかな…皆は無事に学校に来れるかな…大雪で道路が凍結しているから、先生方も全員事故無く出勤できるかな…心配事の九割は起こらない。そして無事最後の文化祭は幕をおろしました。皆があんなに大きな声でまとまって、「長高！オー！」のかけ声の後の、参加者全員の万雷の拍手は今も忘れられません。こんなに少ない人数しかいない学校なのに、今まで聞いたことがない、素晴らしく感極まる大きな声でした。ありがとう、みんな。

長沼高校は深い歴史と伝統があり、地域の皆様と共に歩んできた学校でした。各界で活躍する卒業生の皆さんの実績は周知の通りです。須賀川高校との統合が決まり、そこから動き出した統合のための事の数々。それは、決して平坦な道のりではありませんでした。しかし、この誇り高き長沼高校の歴史的一幕に皆さんと共に彩りできたことは、奇跡とも呼ぶ素敵な出来事でした。もし、あの時あの場面、生徒の皆さんを含め私達が居なかったら、私達じゃなかったら、「今」は無かったと思います。ありがとう、みんな。私もいたずらな運命ときまぐれな宿命に、何度も心折れそうになりましたが、生徒の皆さんの笑顔と言葉と励ましに何度も何度も救われ、支えられ、元気をもらい、この一連の統合業務をやり切ることができました。ありがとうございました。立ち足かかる困難の数々。コロナ感染予防対応と同時並行で降りかかる大問題。私達は、どう向き合っ、どのように解決してきたかを、きっと今後の歴史が証明してくれるのだと思います。共に時間を過ごしてくれたみんなに、心より感謝します。

人間は、悲劇的状況の中で、その真価を発揮するものです。「来るべき日に備え、責任と覚悟を持て。」そして、「今、自分にできることをするまでだ。」と幾度となく自分自身に言い聞かせ、「逃げられません。覚悟を決めなさい。」と自問自答した日は数えきれません。欠陥が多い機械はいくら修理してもまた故障するように、自分の頭で考え、しっかりと意思の元に答えを出さない限り、この統合はやりきれなかったと思います。それが、たとえ、砂漠に水をまくような仕事であっても、今、目の前にいる大切な生徒の皆さんを大切に。…私達教職員にとって、そんな貴重な時間でした。だからこそ、この最後の長沼高校の卒業証書を受け取るみなさんには、大きな価値があるのだと感じます。

世の中のほとんどに答えはありません。仮に、答えのようなものが出たとしても、それが正解か不正解かは、誰にも解らないものです。人は配られたカードで勝負する。屋根が広ければ積もる雪も多い。どこか非合理で、泥臭い努力をする姿が、実はカッコいい。そして、良い習慣は、才能を超える…。こんな話、もう皆さんにはできないけれど、奇跡の紫陽花、輝く母校長沼高校は永遠です。卒業生の皆さん、いつまでも、未永くお元気で。たくさんの感動と忍耐をありがとう。 やよい、ついたち、さようなら。